

「土曜授業」実践事例（平成 29 年度 年間 6 回実施）

北斗市立浜分小学校

年間 6 回、土曜授業を実施しており、例年、全校や分団での活動、地域・保護者への授業公開を行っている。

内 容
○授業参観【4月】 ・土曜日に、第1回目の授業参観を実施することで、多くの保護者が参加している。
○通常授業【5月】
○分団会議・集団下校・交通安全集会【7月】 ○分団会議・集団下校【12月】 ・高学年がリーダーとなり、活動している。 安全な登下校について話し合いをした後、危険箇所を確認しながら下校している。 ・7月には、交通安全集会で、分団ごとに交通安全宣言を発表する。 ・地域の方や交通指導員が出席し、交通事故の恐ろしさや命の大切さについての話を聞くことで、決意を新たにしている。
○地域公開参観日【10月】 ・地域の方にも、学校の様子を参観いただき、学校の教育に関して関心を高める場としている。
○6年：外部講師による琴の演奏と鑑賞【1月】 ・北斗市社会教育課との連携事業として実施し、実際に和楽器に触れる貴重な機会となっている。



【交通安全集会】



【琴の演奏】

【成果と課題】

- 地域公開参観日を含む学習参観日を年2回、土曜日に開催することにより、平日の参観が難しい保護者や地域の方々に来校していただく機会が増えた。
- 児童数が多いため、開催する場所や移動手段の確保が難しいが、今後は外部講師を招いての学習や体験的な学習を工夫して実施する必要がある。

1 青苗小学校における土曜授業の3つの柱

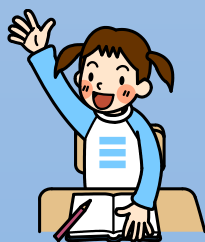
学 ぶ

一人一人の実態に応じ、より一層の学力・体力の向上を目指します。

土曜授業の実施によって授業時数にゆとりが生まれ、これまで以上に児童の実態に応じたきめ細かな指導が可能になります。

学習につまずきが見られた場合は、丁寧な学び直しを、学習内容がしっかりと身に付いている場合には発展的な学習への挑戦をします。

ゆとりある日課の中で、子どもたちに確かな学力と体力を育みます。



ふれる

体験的な活動を取り入れ、地域のよさにふれる機会を増やします。

土曜授業では、豊かな地域素材にふれる体験や地域の人材から学ぶ学習を行います。こうした学習を土曜日に行うことで、ゲストティーチャーなどの協力がこれまで以上に得られやすくなります。

子どもたちが地域に目を向けることで、「ふるさと青苗」のよさが実感できるとともに、地域の一員として自分たちにできることを考えようとする自主性も育まれます。



開 く

子どもたちの学びを伝え、より地域に開かれた学校を目指します。

子どもの学びは、「伝え」「受け入れられる」ことで実感を伴って身に付くものです。

青苗小学校では、土曜授業の機会を生かし、子どもたちの学びの成果を積極的に発信します。

2度の授業参観のほか、生活科・総合的な学習の時間の発表会などの全校的な行事の参観も実施し、土曜授業を通して学校・家庭・地域・行政が一緒になって子どもの成長を語り合う機会を提供します。



2 土曜授業における防災教育の充実

(1) 地域人材と協同で行う防災教育の取組

土曜授業は平日に比べて地域の方が参加・協力しやすいという利点があります。青苗小学校では、土曜授業のゲストティーチャーとして地域の方に積極的に関わっていただいています。児童にとって、身近な地域の方から学ぶことを通して、「ふるさと青苗」や自己の生き方を見つめる貴重な機会となっています。

(2) 6年間を見通した防災教育の指導計画の作成

これまでの防災教育の取組を振り返り、6年間を見通した防災教育の指導計画を作成しています。これにより、学年を追うごとに防災に関する実践力が高まるとともに、高学年の学びの姿が低学年のモデルになるという良好なサイクル（自助から共助へ）が生まれています。

平成29年度 土曜授業の様子 奥尻町立青苗小学校

学 ぶ

5月20日（第2回）



[新体力テスト]



[保護者の計時協力]

土曜授業を活用し、全校で新体力テストに取り組みました。教職員で役割分担を行い、全校一斉に実施しました。このテストの結果を分析し、休み時間を使った体力づくりにも取り組んでいます。当日は、PTA保健部の保護者に呼びかけ、計測、記録の仕事に協力してもらいました。

10月14日（第6回）



[練習後の振り返り]



[全校表現の練習風景]

学習発表会の練習を行いました。土曜授業を活用することにより、練習期間中も余裕をもって教科の学習に取り組むことができます。

平成29年度 土曜授業の様子

奥尻町立青苗小学校

ふれる

6月17日（第3回）



〔気象の専門家による説明〕



〔雨量計の仕組みについて〕

6月の土曜授業は、函館地方気象台より気象の専門家をお招きして防災に関する学習を行いました。2時間目は「急な大雨・雷・竜巻から身を守る」3時間目は「津波からにげる」というテーマで授業をしていただき、クイズなどを織り交ぜ、とても楽しく学ぶことができました。授業終了後には、本物の雨量計(写真)を見せていただきました。当日は、保護者の皆様にも参観していただきました。

7月22日（第5回）



〔教育局職員による防災に関する説明〕



〔段ボールでのテーブル作り〕

7月の土曜授業では、防災教育にかかわる体験活動を行いました。はじめに、腕をけがしたときに腕をつるための道具をスーパーのレジ袋で作りました。次に、新聞紙を折ってのスリッパ、西洋紙を折ってのお椀などを作りました。特にスリッパは簡単にでき、とても実用的でした。また、ペットボトルで食器を作ったり、段ボールを切って組み合わせ、頑丈なテーブルも作ったりしました。すべてのものが、身近なもので作ることができ、子どもたちも先生方も新しい発見をたくさんできた防災学習でした。

平成29年度 土曜授業の様子 奥尻町立青苗小学校

開 く

4月22日（第1回）



〔1年生を迎える会〕



〔集団下校訓練（防災教育）〕

児童会が企画した1年生を迎える会です。各学年の工夫を凝らした発表や少しずつ学校に慣れ始めた1年生の校歌やお礼の言葉がありました。終始和やかな雰囲気です。第1学年の保護者が来校し、参観しました。

また、防災教育の一環として、集団下校訓練を行いました。方面別に集合し、高学年児童が低学年の面倒を見ながら安全に下校できました。

7月15日（第4回）



〔地域行事におけるよさこい披露〕



〔鼓笛演奏の披露〕

奥尻三大祭り「室津祭り」に参加しました。小学校は「よさこい」「鼓笛演奏」を披露し、会場を大いに盛り上げました。地域の行事に積極的に参加し、地域の方と関わることで、子どもたちの健全育成が図られています。

天塩町立啓徳小学校

児童数：17名
教職員数：6名

□ 本校における土曜授業のねらい

コミュニティ・スクールの機能を十分に生かし、保護者・地域の教育力を活用した体験的な活動の推進により、学校や地域のよさを子どもたちに理解させるとともに、他者とよりよい人間関係を築く子どもを育成する。

地域の教育資源を生かして、子どもたちの豊かな心を育む「まんてん畑」の取組

〔取組の概要〕

- 1 「まんてん畑」の畑づくり
 - ・保護者や老人会の手伝いをいただきながら、畑おこしや肥料まき、マルチシート貼りなどの作業を実施する。
- 2 「まんてん畑」の苗植え
 - ・老人会の方々と一緒にじゃがいもや玉ねぎ、にんじんなどの野菜の苗植えを実施する。
- 3 「まんてん畑」の整備
 - ・野菜の間引きや除草、土寄せなどの知識や方法を学びながら、畑を整備する。
- 4 「収穫祭」の開催
 - ・協力していただいたことに感謝し、収穫した野菜で「豚汁」や「かぼちゃサラダ」を作り、保護者や老人会の方々を招待して会食を実施する。また、この活動をとおして学んだことや調べたことを発表する。



【「まんてん畑」の畑づくりの様子】



【「収穫祭」の様子】

〔取組のポイント〕

- 学校運営協議会やPTA組織と連携を図って、全教職員はもとより、保護者や地域の方々と「土曜授業」のねらいを共有する。
- コミュニティ・スクールの仕組みを機能させて、地域の人的・物的資源を効果的、計画的に活用する。
- 自然体験の充実とともに、食物の大切さや自然の恵みに触れることのできる「食育」との関連を図ったカリキュラムを工夫する。

◆ 実際のカリキュラムについては、道教委のWebページを御覧ください。

<http://www.dokyoj. pref. hokkaido. lg. jp/hk/gky/kyouikukatei/doyojissen. htm>

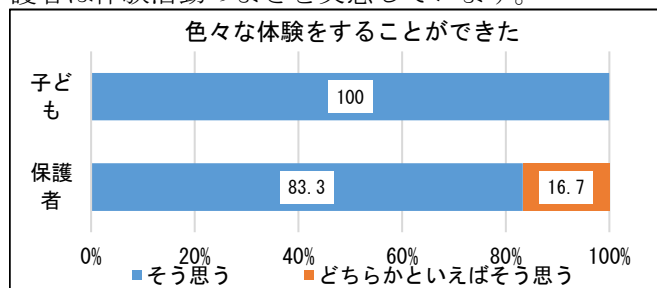
<地域の方の声>

この取組は、子どもたちに自分たちの学校のために奉仕しようとする気持ちを育てたいという学校、家庭、地域の願いの実現に向けて行ったものです。

「まんてん畑」の整備や作物のお世話を保護者や老人会の方々と一緒に行うことで、子どもたちの活動がとても充実し、たくさんの笑顔を見ることができています。

<H28「土曜授業」アンケートの結果>

「まんてん畑」などの取組をとおして、子どもや保護者は体験活動のよさを実感しています。



土曜授業の取組

中頓別町立中頓別小学校

本校では平成 28 年度より年間5回の土曜授業を実施しています。土曜日の登校に対する児童の負担感を少しでも減らそうと、教科の授業を行うだけでなく、土曜授業に地域とともに取り組む活動を設定するなど、土曜授業の内容を工夫しながら進めています。

【クリーン作戦】

5月13日(土)に行われた、町内のクリーン作戦に、本校の児童が参加する形で実施しました。出発式のあと、校地内や市街地など学年ごとに決められた場所に出かけ、解けた雪の下から出てきたゴミをていねいに拾い集めました。

中学校でも、土曜授業による同日開催だったため、地域の方々や小中学校で連携し、活動のより一層の充実が図られました。



【中頓別神社祭】

本校では例年、神社祭に合わせて鼓笛パレードを行い、さらに町内のみこしパレードに加わっています。今年度は、7月22日(土)に鼓笛パレードを実施しました。1時間半にわたって町内を練り歩きました。



今後、総合的な学習の時間「中頓別探検隊」の発表会を12月に予定しており、保護者はもとより、調査活動でお世話になった方々をお呼びして、学習の成果を披露します。

弟子屈町立和琴小学校 (平成29年度 年8回実施)

本校の土曜授業のねらい

- ・本校は極小規模校であり、社会的な体験活動の不足から、児童が豊かな人間関係を築く機会の確保に課題が見られたことから、土曜授業に地域の人材や自然などを活用した体験的な活動を行い、児童にふるさとへの愛着と地域の一員としての意識を醸成するとともに、自分を表現し他者を理解するコミュニケーション能力の向上を図る。

【全校遠足】

- ・土曜授業に遠足を行うことで、十分な時間を確保し異学年の児童同士が関わり合う機会を設定した。
- ・アップダウンのある山道やコースに設けられたアスレチックを異学年が励まし合いながら取り組むことで、全員が目的地まで歩くことができた。



アスレチックに挑戦する様子

【児童の声】

難しいコースもあったけど上級生に「がんばって。」と言われて頑張れました。みんなと歩いて、楽しかったです。

【新体カテスト】

- ・新体カテストを近隣の川湯小学校と合同で実施することにより、競い合ったり、励まし合ったりしながら、他校の児童とも人間関係を築くことができるようにした。
- ・児童同士の交流が促進されるとともに、互いに競い合ったり励まし合ったりする姿が見られ、記録の伸びにつながった。



20mシャトルランに取り組む様子

【児童の声】

難しい運動もあったけど、たくさんの友だちに応援されて、頑張ろうと思いました。

【ふるさと体験学習】

- ・地域の人材を講師に、地域の自然を存分に味わう体験活動を行い、ふるさとへの愛着や地域の一員としての意識、コミュニケーション能力を高めるようにした。
- ・カヌー体験や乗馬体験、星空観察などを通して、たくさんの人や自然と触れ合い積極的にコミュニケーションを図る姿が見られた。



乗馬体験をする様子

【児童の声】

馬は大きくてびっくりしました。乗馬体験は少し怖かったけど、優しく教えてもらえ、乗ってみると楽しかったです。

保護者や地域と連携した基礎・基本の確実な定着に向けた土曜授業の実践

<羅臼町立羅臼小学校>

□本校の土曜授業のねらい

保護者や地域住民と連携した補充的な学習の充実を図ることにより、子どもに基礎・基本の確実な定着を図る。

【実践の取組概要】

学習内容の確実な定着を図るため、土曜日に既習事項の理解の状況を確認しながら、平日の学習を振り返る復習を行うなど、子どものつまずきへの対応を重点とした指導を位置付けるとともに、平日と同様、授業の内容と関連付けた宿題を与えた。

また、保護者や地域住民に、国語、算数のプリント学習の採点を依頼することにより、学級担任の個別指導に当たる時間が確保されるとともに、保護者が子どもの学習習慣の確立に向けた家庭の役割について理解を深めた。

【実践の取組ポイント】

ポイント① 既習事項を中心とした課題を扱うこと

ポイント② 子どもの学習状況に対応すること

ポイント③ 個別指導の時間を十分に確保すること

ポイント④ 家庭での学習習慣の確立に向けて保護者の意識を高めること



【子どものつまずきを学級担任が把握する様子】

子どもの声

- 「授業で間違えていた計算ができるようになりました」
- 「土曜授業の日は、ちゃんと起きて規則正しく生活できました」



【課題別のプリントを子どもが自ら選ぶ様子】

保護者の声

- 「子どもの学習に関わることで、家庭学習の大切さを身近に感じた」
- 「子どもは土曜日の生活でただ何もしていないよりもよいと思う」



【課題の丸付けなど保護者の支援の様子】